

22 原子力災害について

放射線から身を守るには

外部からの放射線から身を守るには、放射性物質から距離をとる、放射線を受ける時間を短くする、放射線を遮る方法があります。放射線の量は、放射線物質からの距離によっても大きく異なり、放射線物質から離れれば放射線量も減ります。例えば、距離が2倍になれば放射線量は、4分の1になります。その他、被ばくする時間を減らしたり遮へい物を置いたりすることにより放射線量を減らすことができます。原子力発電所や放射線物質を扱う施設などの事故により、放射線物質が風に乗って飛んで来ることがあります。その際、長袖の服を着たり、マスクをしったりすることにより、体に付いたり吸い込んだりすることを防ぐことができます。屋内へ入り、ドアや窓を閉めたりエアコン（外気導入型）や換気扇を止めたりすることも大切です。なお、放射線物質は顔や手についても洗い流すことができます。その後、時間がたてば放射性物質は地面に落ちるなどして、空気中に含まれる量が少なくなっていくます。その状態ではマスクをしなくてもよくなります。

安定ヨウ素剤

「安定ヨウ素剤」は、甲状腺の内部被ばくを防ぐための予防剤です。原子力発電所で大きな事故が起こったときに大気に出やすい物質に放射性ヨウ素があります。ヨウ素は体の中にはいると、甲状腺に集まるといった性質を持っています。しかし、前もって安定ヨウ素剤を飲んでおけば、甲状腺に集まりにくくなります。万が一事故がおきた場合には放射性ヨウ素がある量を超えると予測されたときに飲みます。安定ヨウ素剤は緊急時に各避難所で配布されます。



待避や避難の考え方

放射性物質を扱う施設で事故が起こり、周辺への影響が心配されるときには、市役所、あるいは県や国から屋内避難や市外への避難などの指示が出されます。周辺のデマなどに惑わされず、混乱しないようにすることが大切です。テレビやラジオなどで正確な情報を得ること、家族や先生などの指示をよく聞き、落ち着いて行動することが大切です。事故後の状況に応じて、指示の内容も変わるので注意が必要です。

